未来へつなぐ税金

私立近江兄弟社中学校3年1組
明山（あけやま）　愛唯（あい）

No. 1

みなさんは琵琶湖森林づくり県民税というものがあるのを知っていますか。琵琶湖森林づくり県民税は二〇〇六年から滋賀県に導入され、滋賀県民は年八百円を納める必要がある税金です。私は琵琶湖森林づくり県民税とはどのような税なのか気になり、調べてみました。すると、滋賀県の森林を守り育てるためや、水源体の保全、県民参加の森づくり活動の支援、シカなどの鳥獣害対策に使われていることがわかりました。滋賀県の森林は琵琶湖の水を浄化し、豊かな生態系を支えるために欠かせない存在であると知りました。

私は小学三年生から六年生まで緑の少年団というボランティア活動に参加していました。緑の少年団では、公園のお花を植え替えたり、老人ホームに行ってお話をしたり、緑の募金などをしていました。調べる中で私が参加していた緑の少年団にもこの税金が使われていることを知りました。活動をしていたころはお花を植えたり、募金活動をしたりしていても、それを支える税金の存在について考えたことはありませんでした。しかし今回調べてみて、自分が参加していた活動にも税金が使われていたことを知り、とても驚きました。

No. 2

税金は道路や学校だけでなく、私たちが気づかないところで地域を支え、暮らしを豊かにするために役立っていることを実感しました。

また、森林は木を育てるだけではない、大切な役割があります。雨水を蓄えて、きれいな水をつくったり、土砂災害を防いだり、多くの生き物の住みかになったりと私たちの生活を支える大切な役割があります。滋賀県にとって琵琶湖は欠かせない存在ですがその琵琶湖を守るためには森林を守ることも重要だとわかりました。また、琵琶湖の水は滋賀県だけでなく、京都府や大阪府など、近畿の多くの人々の暮らしを支えることにもつながっていると考えました。

私は琵琶湖森林づくり県民税は自然環境を未来へ引き継ぐための大切な税金なのだと思います。私たちはまだ中学生で、税金を納める機会はまだほとんどありません。しかし、税金は道路や学校だけでなく、私たちが気づかないところで地域や社会に関心を持ちながら生活していきたいと思いました。

No. 3

大人になって税金を納めるようになったときは、その意味を理解し、社会を支える一人として責任を果たしていきたいと思いました。

これからは、税金を身近なものとして考え、学びをこれからの生活にも生かし、税金の大切さを忘れず、それによって支えられていることへの感謝の気持ちを持ち続けていきたいです。